



運動会



平成22年10月16日(土)に当院の運動会が開催されました。当日は多くのご家族様や他施設の方にも来院して頂き、盛大に行うことができました。参加された患者様は生き生きとした表情でさまざまな競技に参加されていました。



滑川祭り

平成22年10月31日(日)から11月3日(水)まで滑川町文化祭に参加しました。今年も絵画・手芸等を出展し、患者様も見学に行かれました。11月3日には、当院として模擬店(バザー)を出店しました。

クリスマスコンサート

平成22年12月11日、ボランティアの方による、トランペットとピアノのコンサートが行われました。

演奏曲は、クリスマスシーズンに合わせて『ジングルベル』や『もろびとこぞりて』をはじめ、クラシックや昭和歌謡曲も取り上げた構成でした。

演奏が始まると、笑顔で口ずさんだり、リズムをとったりする人も多く見られました。楽しい音楽に合わせて、自然と心が躍るような、素敵な演奏会となりました。



クリスマス会



12月はクリスマスシーズンという事で、各病棟ともにレクリエーションとして『クリスマス会』を行いました。患者様にはゲーム、クイズ、カラオケなど、楽しい時間を過ごして頂いた様子でした。



院内研修

平成22年度継続看護セミナー

平成22年11月20日(土)に東松山医師会看護継続委員会主催の看護セミナーが埼玉成恵会病院スカイホールであり、当院の磯野院長が「認知症について」の講演を行いました。多くの方が参加し積極的な質問も寄せられました。また、事例を通し認知症を正しく診断をすることの大切さと今後保険で承認されることになる認知症治療薬等の話も聴くことができました。



新入職員研修会

平成22年11月11日~12日の2日間に亘り新入職員研修が開催されました。対象者は、7名で病院理念から精神保健福祉に関する法律や安全管理に関する事など幅広く行われました。



安全管理研修

平成22年12月22日に全職員対象にリスクマネジメントについて研修を行いました。

リスクを把握・分析し事故防止対策を立案して、具体的な改善策を実施するまでの一連の流れを学習しました。これからも安全な医療を提供できるよう取り組んで参ります。



接遇研修

平成22年12月17日に接遇研修を行いました。医療従事者としての基本的なマナーや行動、言葉づかいについて学習しました。選ばれる医療機関になれるよう医療技術や安全管理と併せて今後も努力して参ります。



～ リハビリ通信 ～

社会復帰トレーニングの場『自立活動』を始めて、1か月が経ちました。「体力」「コミュニケーション力」「生活力」の向上を目指し、一週間、日替わりで【エクササイズ、生活講座（多職種が持ち回りで担当）、表現力レッスン、軽スポーツ（内容は話し合いで決定）、リラクゼーション】を行っています。まだ始まったばかりですが、日毎に「仲間」の雰囲気になってきました。特にメンバーお気に入り空間の畳で、卓袱台を囲んでお茶を急須で入れて湯呑で飲むと、自然に語り合い笑顔になります。そんな心の交流が必ずメンバーの力になると信じています。



お知らせ

○ ご来院の皆様へ

インフルエンザ、ノロウイルス等を含む感染予防として、発熱・咳・下痢・腹痛・嘔吐などの症状がある方のご来院は、お控えくださいますようお願いいたします。また、ご面会なさる方については、手洗い・マスクの着用をお願いしております。受付窓口・病棟出入口には消毒用アルコールを設置しておりますので、ご面会の前後に是非ご使用ください。

○ 滑川町ふれあいバスの発着時刻が変更になりました。

このコースは『毎週金曜日』のみの運行です。

発着所	発着時刻			
森林公園駅北口	—	10:12	11:47	14:12
埼玉森林病院	9:16	10:51	13:16	14:51
森林公園駅北口	10:12	11:47	14:12	15:47

うきうき編集後記

年も明けて寒い日が続きますが、ふと思い出すと、2010年の夏は記録的な猛暑でしたね。少し時間が経つと、すぐに昔の記憶は薄れてしまうなど感じます。日々の生活の中で忘れていってしまうこともありますが、ひとつひとつの人との出会いはしっかりと心に残るように大切にしていきたいと感じる今日この頃です。

今年もよろしく願いいたします。

臨床心理士 小山 翼



医療法人 昭友会 埼玉森林病院



〒355-0807 埼玉県比企郡滑川町大字和泉 704

TEL:0493-56-3191 / FAX:0493-56-4831

昭友会ホームページ: <http://www.kokoro.or.jp>



新年のご挨拶



新年明けましておめでとうございます。

去年は、地域の医療機関・介護施設、近郊の市町村役場の医療福祉部門等に訪問をさせて頂き、多くのご担当の保健師さんを始め介護支援専門員・ケースワーカーの方々から当院を含め精神科病院へのご意見やご要望を聴かせて頂くことが出来ました。その内容の中で特に多く要望が寄せられたのが、在宅でのアプローチを地域の担当者の方と精神科医師や精神保健福祉士も一緒に係わって頂きたいということでした。それはどんなことかと言うと、個々の異なる症例を、その当初の段階でより専門的見地から適切な治療先や介護サービス等に振り分けが出来ないものかということでした。これによって、どれだけご本人の早期治療やご家族の心労の緩和に繋がるかということです。

精神科医療の現在の流れが『入院医療中心から地域生活中心へ』と変化している中で私たちは、入院患者様の退院促進と退院後のフォローを通して社会復帰に結び付けられる為の活動をして参りました。その一方で早期に治療を行えるよう活動していたと思っておりましたが、今回地域の担当者の方からのご要望を伺って、今何を求められているかを尚一層考えていかなければいけないと感じました。ただ、そこには病院の体制や人員の問題等も多数ありますが、当院が先ず出来ることが有るはずで。

患者様がより良い医療・介護が早く受けられるよう私たちは、『内から外への活動』にこれからも努力をしつつ、地域の方々に対してどんなことでお役に立てられるのかを明確にし、担当者の方との情報交換を早い段階で積極的に行うことを基本としてまいりたいと思います。今年もどうぞ宜しくお願い致します。

埼玉森林病院
事務長 井田 保則